

令和 5(2023)年度 運営に関する計画

【最終評価】

学校教育目標

人間尊重の教育を基盤とし、個性を生かし、豊かな人間性を育て、たくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する。

学力の向上

子どもの状況に応じた学力向上に取り組む

道徳心・社会性の育成

豊かな人間性や生きる力を育む

健康・体力の保持増進

健康な生活習慣の確立、食育の推進

特別支援教育の充実

生徒の自立や社会参加に向けての支援

大阪市立墨江丘中学校

令和 6 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 全国、府、市が主催となる学力テストにおいて、ここ数年大阪市平均レベルを上下する程度にとどまっている。当然個々の課題もあるが、全体的にはここ5年間国語分野における「文書読解力の分野」が低迷している。そのことは、他教科にも少なからず影響していると言わざるを得ない。また、基礎学力が定着していない層も増えつつあり、一定の実力のある層との2極化も進みつつある。ある程度実力のある層に対しても、課題である読解力アップや更なる学力向上を目指し様々な取り組みを展開する。
- その一つとして、ICT機材を活用した、授業の在り方を通して、質の改善と図りわかりやすい授業展開を構築し、民間テストの運用さらには校内テストにおける分析ソフトを導入し、様々な角度から生徒個々の弱点を明確にしながらその補習に努める。
- 普段の生活では見受けられないが、昨年の校内アンケートから規範意識は高いものの、自己肯定感に低い数値が表れる。SDGsの取り組みや人権教育を通して生命の尊さや、自他の命を尊重させる心を育て、また、社会の一員としてその文化に触れ、地域活動に参加することにより地域の方々のつながりを深めさせ、次世代の街づくり、更には地域防災へとつなげていく。
- また、不登校のみならず、何らかの要因により学校へ登校しにくい生徒の個別学習環境(居場所確保)の整備にも着手しながら、既成概念にとらわれない学び方についても模索する。

中期目標

大阪市教育振興基本計画に準ずる項目について、令和7年度末における本市の数値目標を上回る。

【安心・安全な教育の推進】

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を2.30%以下にする。
- ・校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を65%以上とする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を35%以上にする
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も1.00以上とする。
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を56%以上にする。
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53.6%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ICTを活用した授業において、全教員でのべ10000時間以上とする。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%とする。
- ・墨江丘タイムを年間6回以上、ノー残業dayを年間10回以上とする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安心・安全な教育の推進】

全市共通目標

- ・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(85.0%)より増加させる。
- ・校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(10.5%)より1.0%以上減少させる。
- ・校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度(40.3%)より1.0%以上増加させる。

学校園の年度目標

- ・校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える肯定的回答の割合を前年度(97.9%)より増加させる。
- ・以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。

- 「クラス・学校は楽しい」の項目について (前年度 85.3%)
- 「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について (前年度 89.2%)
- 「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について (前年度 92.4%)
- 「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について (前年度 89.0%)
- 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について (前年度 93.6%)

【未来を切り開く学力・体力の向上】

全市共通目標

- ・校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(32.3%)より増加させる。
- ・中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より増加させる。(2年 前年度 国語 1.0 数学 1.05 3年 前年度 国語 1.01 数学 1.04)
- ・大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度(60.1%)より増加させる。
- ・校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度(男子 57.9% 女子 41.2%)より増加させる。

学校園の年度目標

- ・校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度(90.8%)より増加させる。
 - ・全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。(全国平均男子 41.32 女子 47.22 市平均男子 40.79 女子 46.99)
 - ・以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。
- 「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目 (前年度 83.9%)
 - 「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目 (前年度 78.6%)
 - 「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目 (前年度 94.9%)
 - 「自分にもいいところがある」の項目 (前年度 74.7%)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標および学校園の年度目標

- ・ICTを活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数(R4:7974 R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回る。
- ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上とする。
- ・墨江丘タイムの日を年間6回(前年より+1)、ノー残業dayを年間9回(前年より+1)以上とする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の推進】

- 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 86.6%↑
- 校内調査において、不登校生徒の在籍比率 10.5%↑
- 校内調査において、不登校生徒改善の割合 33.0%↓
- 校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える肯定的回答回答の割合 98.2%↑

以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。

- 「クラス・学校は楽しい」の項目について 88.3%↑
- 「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について 91.2%↑
- 「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について 93.6%↑
- 「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について 90.5%↑
- 「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について 96.7%↑

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合 40.1%↑
- 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より増加させる。

2年国語 2年数学 3年国語 1.02↑ 3年数学 1.08↑

- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能) 59.4%↓
- 校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合

男子 55.2%↓ 女子 40.5%↓

- 校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答回答 90.7%↓
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点 男子 42.41↑ 女子 48.85↑ (全国平均男子 41.32 女子 47.22 市平均男子 40.79 女子 46.99)

以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。

- 「宿題を含め、予習復習など家庭・学校外での学習をよく行っている」の項目 81.9%↓
- 「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目 70.1%↓
- 「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目 92.3%↓
- 「自分にもいいところがある」の項目 78.8%↑

【学びを支える教育環境の充実】

- ICTを活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数 (3月末処理予定)
- 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合 (3月末処理予定)
- 墨江丘タイム5回↓ ノー残業day20回↑

大阪市立墨江丘中学校 令和5(2023)年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(85.0%)より増加させる。 校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度(7.4%)より減少させる。 校内調査において、不登校生徒改善の割合を前年度(66.6%)より増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における、「学校のルールを守って生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える肯定的回答の割合を前年度(97.9%)より増加させる。 以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○「クラス・学校は楽しい」の項目について(前年度 85.3%) ○「普段から、あいさつを積極的にしている」の項目について(前年度 89.2%) ○「清掃活動などの班活動に協力し、校内美化に努めている」の項目について(前年度 92.4%) ○「人を傷つけるような言葉や、行動に対して腹が立つ」の項目について(前年度 89.0%) ○「人それぞれの〈ちがい〉を大切にすることを学んでいる」の項目について(前年度 93.6%) 	B

※P.2より転載する

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【安心・安全な教育の推進】	進捗状況
<p>取組内容① (1. 安全・安心な教育環境の実現)</p> <p>朝の登校指導(遅刻〇の日等) や服装点検等々、学校生活全般にわたっての学校ルール指導強化期間を構築しその徹底を図る。</p> <p style="text-align: right;"><i>(きまりを守る: 生徒指導主事)</i></p>	B
<p>指標 生活指導強調週間を年間3回以上設定する。</p>	
<p>取組内容② (1. 安全・安心な教育環境の実現)</p> <p>生徒間で起こる「いじめ」や「トラブル」について、確実な情報収集とともに早期解決に向け組織的に対応する。</p> <p style="text-align: right;"><i>(いじめ・暴力行為防止・不登校対策: 生徒指導主事)</i></p>	B
<p>指標 学期に1回全生徒にアンケートを実施し、それに基づいた教育相談を実施解決にあたる。</p>	
<p>取組内容③ (2. 豊かな心の育成)</p> <p>墨江・清水丘連合会に、生徒の防災リーダーを認定し、さらに、「命」をテーマに、防災の取り組みを各学年で構築していく</p> <p style="text-align: right;"><i>(各学年)</i></p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年：防災リーダーを中心に各町会の一斉清掃の実施・地域との防災意識の向上に努める 2年：区役所・消防署・地域共同の防災訓練の構築 3年：救急救命講習初級を実施し、3年全員に資格を獲得させる 	

年度目標の達成状況の結果と分析

①(生活指導部)

学期初めに実施することにより、普段と比べて遅刻の数が減少した。また、遅刻・忘れ物が0になるために、生活委員で新たな取り組みを日ごろの学校生活から実践できればとノーチャイムデーや生活定着週間をもう一度やるなどの提案があった。今年度の3学期から試行する。

②(生活指導部)

いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、教職員全員と連携を図り、指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、時代に応じた対策を模索するとともに情報管理、情報共有、提供してもらえる地域との連携を深めていきたいと思う。

③ 1年：今年度も学年全員で実施できた。また月1回の地域のボランティア活動にも参加できた。

2年：今年度も防災学習を実施できた。また東日本大震災の研究者の御高話を聞き、防災の意識が高まった。

3年：145名に実施し、修了書を渡すことができた。当日の欠席者にも個別に対応した。

次年度への改善点

①(生活指導部)

生活定着週間の期間だけではなく、この取り組みを日常の学校生活につなげられるように、生活委員と連携していく。担任と生徒一人ひとりの現状の変化、状況を丁寧に話し合い遅刻の数を減少させていきたいと思う。

②(生活指導部)

いじめや暴力行為等の根絶をめざすために、教職員全員と連携を図り、指導する必要がある。また、いじめの手段が常に変化していくため、専門家に講演を依頼しよりリアルなネット被害を知ること、またどうすれば対策できるのかを生徒・教職員で学ぶ機会を設ける。こうした時代に応じた対策を模索するとともに情報管理、情報共有、提供してもらえる地域との連携を深めていきたいと思う。

③ 1年：清水丘地区の地域主体の合同防災訓練にも参加できたので、他地域も含め次年度も地域との連携を図りたい。ボランティア活動にも引き続き参加していきたい。

2年：保護者の協力を得て、東日本大震災の被害にあった大川小学校の命のひまわりを育てているので、その取り組みも続けたい。

3年：不登校生が登校できた場合は、個別に実施・試験ができ、修了書を渡すことができた。登校できていない生徒にも、リモート授業ができればと思いました。

大阪市立墨江丘中学校 令和5(2023)年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を前年度(32.3%)より増加させる。 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対応比を、同一母集団においていずれの学年も前年度より増加させる。 (2年 前年度 国語 1.0 数学 1.05 3年 前年度 国語 1.01 数学 1.04) 大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度(60.1%)より増加させる。 校内調査において「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を前年度(男子 57.9% 女子 41.2%)より増加させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内調査において「学習している内容がわかる、理解しやすい授業だ」の項目について、肯定的回答を前年度(90.8%)より増加させる。 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女ともに合計得点において全国、市平均を上回る。 以下、校内調査において肯定回答を前年度より増加させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○「宿題を含め、予習復習など家庭、また学校外での学習をよく行っている」の項目(前年度 83.9%) ○「先生は授業外で補充学習をしてくれる」の項目について(前年度 78.6%) ○「現在も、これからも誰かの役に立ちたいと思っている」の項目について(前年度 94.9%) ○「自分にもいいところがある」の項目について(前年度 74.7%) 	B
※P.2より転載する	

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】	進捗状況
<p>取組内容①(4 誰一人取りの残さない学力の向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内定期テストにおいて、生徒の受験への積極的な取り組み姿勢を構築するため、テスト前学習補習時間を設定し、学習強化週間とする。 よりわかりやすい授業づくりのための研究授業、研究協議・教員研修をおこなう <i>(学力向上・教員研修: 教務部)</i> 	C
<p>指標・定期テスト前学習補習時間を年間10時間以上設定し、全教員で指導にあたる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間1回以上の研究授業・2回以上の相互授業参観・教員の研修を行い、授業を通じて、主体的・対話的深い学びをめざした授業づくりに取り組む。 	

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標【未来を切り拓く学力・体力の向上】		進捗状況
取組内容② (4 誰一人取りの残さない学力の向上) 定期的に単元の小テストを実施し、合格点に満たない生徒に対しては再テストや補習を行い、合格点に達するように指導する。	(国語)	B
指標 校内国語科アンケートの「国語の授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的回答を70パーセント以上にする。		
取組内容③ (4 誰一人取りの残さない学力の向上) 毎授業において、計算問題など基本的な問題に関する小テストを実施する。	(数学)	B
指標 中学生チャレンジテストにおいて、「数と式」「文字式」「方程式」の基本的な計算の分野で大阪府の平均を3点上回る。		
取組内容④ (4 誰一人取りの残さない学力の向上) 家庭学習を充実させることによって、基礎学力を定着させる。	(英語)	B
指標 校内英語科アンケートの「英語の授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的回答を75パーセント以上にする。 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を前年度(60.1%)より増加させる。		
取組内容⑤ (5 健やかな体の育成) 各種目、基礎的な運動から、ゲームなどの実践的な運動を実施する。	(保健体育)	B
指標 校内体育科アンケートにおいて「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答を70パーセント以上にする。		
年度目標の達成状況の進捗状況		
①(教務部) 2回以上の相互授業参観を十分に行うことができなかった。		
②(国語科) 2学期期末テストまで、各単元の確認小テスト等を定期的に実施し、必要に応じて再テストや補習を実施した。校内国語科アンケート「国語の授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的回答が70%以上になった。(結果→71%)		
③(数学科) 基本的な計算問題に関する小テストや単元テストを、必要に応じて実施した。3年の実力テストでは基本的な計算の正答率も上がっており、平均店も前回より上がっていた。		
④(英語科) 基本的な英語力を定着させるために、小テストを細かく実施することができた。学習した内容が定着できるように、工夫した教材を提供し家庭学習を充実させた。そのため、「英語の授業はわかりやすいですか」の項目について肯定的回答が75%を超えた。(結果80%) ペアワークをほぼ毎時間実施し、ICTを活用した授業を取り入れてきたが、大阪市英語力調査において、CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する3年生の割合は前年度よりも増加させることはできなかった。 (前年度 60.1% 今年度 59.8%)		
⑤(保健体育科) 各種目、基礎的な運動から実践的なものまで実施することができた 校内アンケートの「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答が70%を超えた(結果→85%)		

来年度への改善点

①(教務部)

来年度は9月に授業研修週間を設定することとしている。

②(国語科) 次年度も引き続き各単元の確認小テスト等を実施する。1・2年生はチャレンジテストで、大阪府の平均を上回るようにする。3年生は実力テストの平均点を、回を追うごとに上げられるように取り組む。

③(数学科)

次年度も引き続き各単元の確認小テスト・単元テスト等を実施する。1・2年生はチャレンジテストで、大阪府の平均を上回るようにする。3年生は実力テストの平均点を、回を追うごとに上げられるように取り組む。

④(英語科) 次年度も引き続き、丁寧な復習教材を作成し家庭学習を充実させるよう取り組む。1・2年生では単元テストを実施し基礎学力を確実に定着させる。3年生は大阪市英語力調査で CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する3年生の割合が大阪市の平均を超えるよう、小テストの実施やICTの活用を継続して取り組む。

⑤(保健体育科)

次年度も引き続き各種目、基礎的な運動から、ゲームなどの実践的な運動を実施する。

「体育の授業は楽しいですか」の肯定的回答については、大阪市平均を超えるように取り組む。

大阪市立墨江丘中学校 令和5(2023)年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標および学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数 (R4:7974 R3:7845 R2:6448 R元:4323) を上回る。 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 80%以上とする。 墨江丘タイムの日を年間 6 回(前年より+1)、ノ一残業 day を年間 9 回(前年より+1)以上とする。 	B ※P.2より転載する

年度目標達成に向けた取り組み内容・指標 【学びを支える教育環境の充実】	進捗状況
取組内容① (6 教育DXの推進) 大型モニター、プロジェクター、タブレット等を活用した、わかりやすい授業の在り方研究、また活用の推進を継続する。	B (学力向上・教員研修:教務部)
指標 16 + 6 クラスの ICT 機材を活用した授業時間を前年度以上を目指す。 ICT 活用の校内研修会を 2 回以上行う。	
年度目標の達成状況の進捗状況	
<p>① (教務部) ICT を活用した授業において、全教員で昨年のべ時間数(R4:7974 R3:7845 R2:6448 R元:4323)を上回った。</p>	
来年度への改善点	
<p>①(教務部) 金曜 5 限を総合の時間とし、墨江丘タイムを設定しやすくする。</p>	

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

1 令和5年度の調査結果の概要 (前年度の最終評価より転記)

区分	結果
① 暴力行為の発生件数(件)	0
② いじめの認知件数(件)	5
③ いじめの現在の状況で「解消しているもの」の件数の割合(%)	100%
④ 中学校における不登校生徒数(人)	51
④高等学校における長期欠席生徒数(人)	
⑤高等学校における中途退学者数(人)	

2 自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	今年度本校において、暴力行為はなかった。
② いじめの状況等	昨年度と同じく、家庭状況の変化や生活習慣の確立などを把握するために、学期始めにクラス担任が生徒一人との教育相談の時間をつくり、悩みや相談できる環境をつくっている。集会や、学年集会でもいじめに関する指導を定期的に行っている。年間3回のいじめの実態調査をして、現状把握に努めている。 スマートフォン、インターネットの普及でいじめ問題も見えにくくなることが予測される。生徒、保護者、教職員の人間関係作りが大いに大切になってくると考えている。
③小・中学校における不登校の状況等	マネジメントコーディネーター会議、職員会議などで不登校生徒の状況を報告している。近年、不登校の実態も変化しつつあり、在宅での学習、サテライトなどの外部学習も増えてきている。 年2回不登校生徒現況報告会を開催し、生徒が不登校になったきっかけや登校できるようになり改善されたケースなど報告しあい、教職員全体で共通理解の場を設けている。 不登校の生徒の家庭的な背景に迫り、生徒の実態を理解して学校だけでは解決できない事案、学校だけに来るという考え方ではなく、社会のありとあらゆる資源である子ども相談センター、SSWなどの関係諸機関を活用して、少しでも子どもたちの成長の場の提供、生徒に応じた指導ができるように連携を進めていきたいと考えている。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること

令和5(2023)年度 学校関係者評価報告書

※学校協議会後に回収します、次年度の参考にさせていただきますのでご意見お願いします。

大阪市立墨江丘中学校 学校協議会

1 総括についての評価

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安心・安全な教育の推進
年度目標：未来を切り開く学力・体力の向上
年度目標：学びを支える教育環境の充実

3 今後の学校運営についての意見